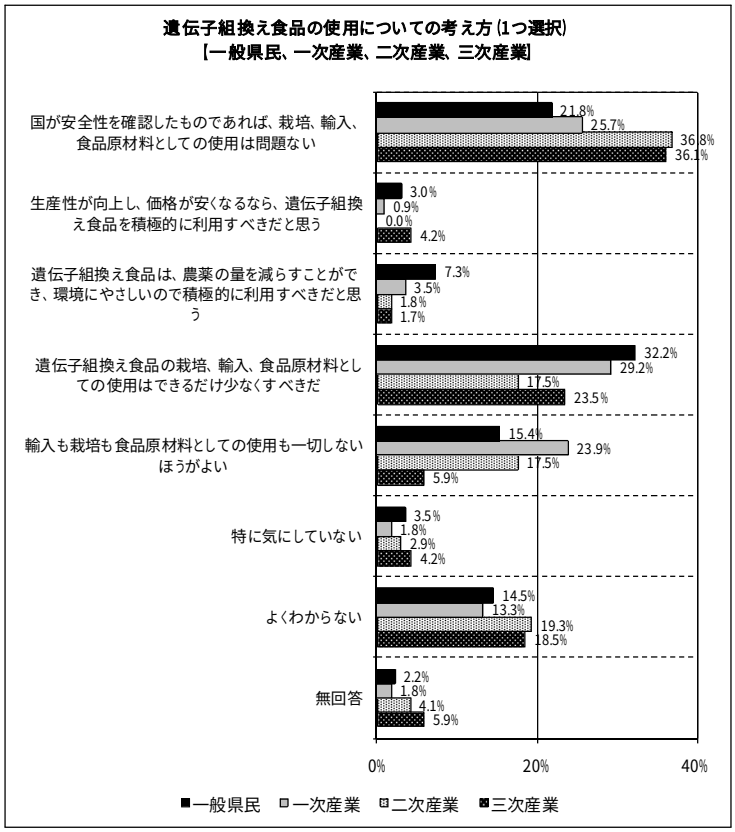
■遺伝子組換え食品について（一般県民、一次産業、二次産業、三次産業）

一般県民と一次産業の
否定的な傾向が強い

一般県民と一次産業では「遺伝子組換え食品の栽培、輸入、食品原材料としての使用はできるだけ少なくすべきだ」が最も多くなっている。

一方で、二次産業、三次産業では「国が安全性を確認したものであれば、栽培、輸入、食品原材料としての使用は問題ない」が最も多くなっている。

一般県民と一次産業は、二次産業、三次産業よりも遺伝子組換え食品の使用に対して否定的な考えが強いことがうかがえる。



■情報入手先について（一般県民、一次産業、二次産業、三次産業）

一般県民、事業者ともにマスコミへの依存度が高い

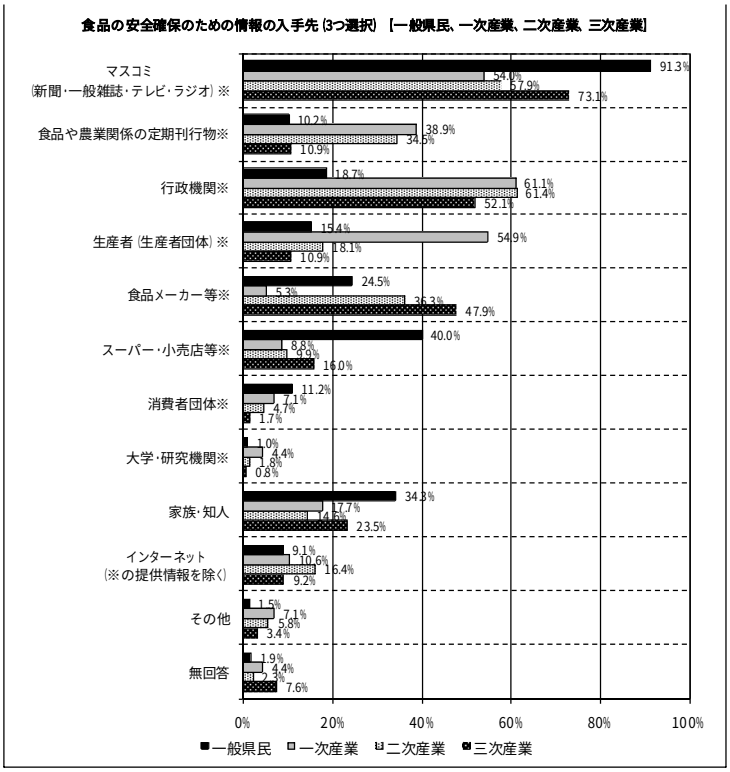
共通してマスコミへの依存度が高い傾向が見られたが、その他、次のような特徴があった。

＜一般県民＞マスコミへの依存度が90%超と非常に高く、次いで「スーパー、小売店等」、「家族、知人」となっている。

＜一次産業＞他の事業者と比較して「生産者団体」の回答率が高く、JA 等の団体とのつながりが強いことがうかがえる。

＜二次産業＞「行政機関」、「食品メーカー等」が上位 2 項目となっており、“保健所等の行政機関の活用と、同業界からの情報入手を中心に行っている状況がうかがえる。

＜三次産業＞マスコミへの依存度が一般県民に次いで高く、次いで、「行政機関」、「食品メーカー等」となっており、行政機関の活用と併せて、取引先からの情報入手を行っているものと考えられる。



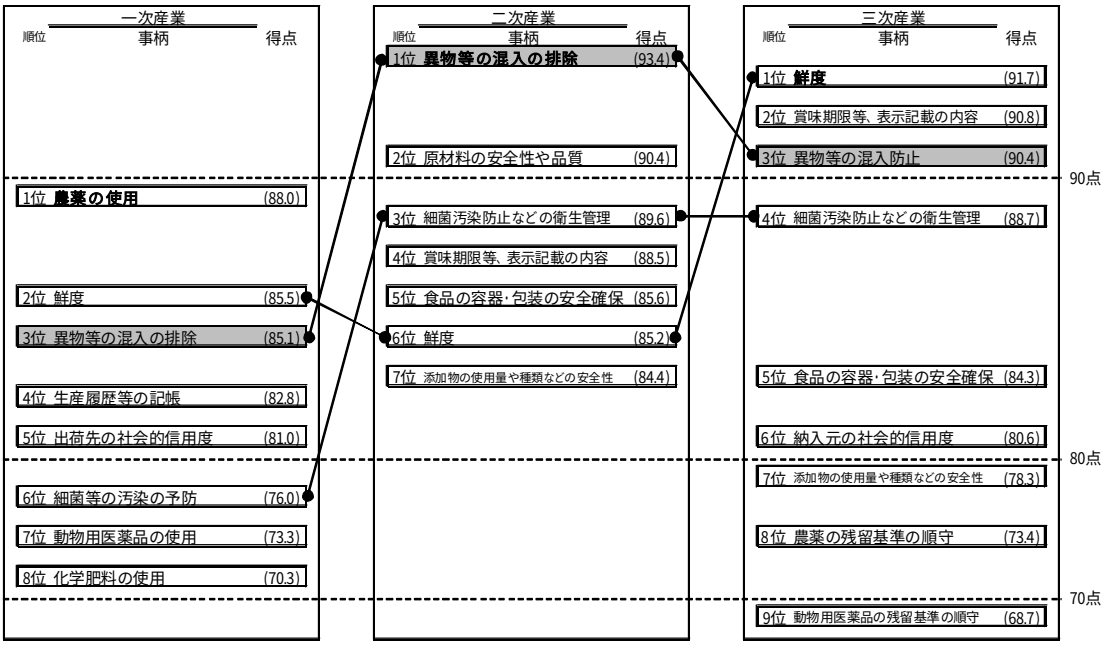
■安全性確保のために重視している事柄（一次産業、二次産業、三次産業）

“ 異物等の混入 ” の排除・防止を重視している

全ての調査区分において重視度が高かった事柄は、“ 異物等の混入 ” であり、各事業者が共通して対策を講じているものであると考えられる。また、「鮮度」については、一次産業、三次産業で共通して重視されており、特に三次産業では第 1 位となっている。なお、二次・三次産業では「細菌汚染防止などの衛生管理」の項目が重視されている特徴がある。

一次産業では「農薬の使用」が最も高く、生産活動でいかに細心の注意を払って農薬を使用しているかがうかがえる。二次産業では、「異物等の混入の排除」、「原材料の安全性や品質」、「細菌汚染防止などの衛生管理」が上位となっており、製造・加工等の品質管理を重視しているものと考えられる。三次産業では、「鮮度」、「賞味期限等、表示記載の内容」の重視度が高く、流通・販売事業者として、消費者の “ 目 ” を意識した項目が重視されている傾向が見られる。

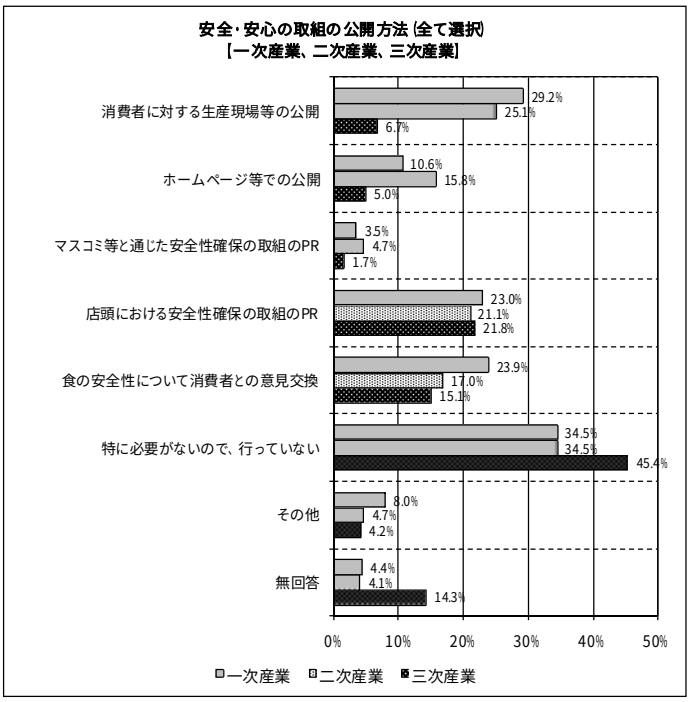
安全性確保のために重視している事柄 [指標化] 【一次産業、二次産業、三次産業】



■安全・安心の取組の公開方法
（一次産業、二次産業、三次産業）

公開は、今後の課題か？

「特に必要が無いので、行っていない」が全ての調査区分において、最も多くなっており、公開が進んでいない状況がうかがえる。

その中でも三次産業は 45.4%と最も高く、その他の項目の多くも他の事業者よりも低い割合となっており、特に進んでいない状況にあると思われる。

一次産業では、特に “ 現場等の公開 ” “ 消費者との意見交換 ” が高い傾向にあり、相対的に積極的な姿勢がうかがわれる。